

シェイクスピアの複合造語

英米文学教室 岡村俊明

日本における「学習基本単語」(高校程度約5500語)のなかに、シェイクスピアの複合造語は2個含まれている (Bedroom (MND 2.2.5), Schoolboy (LLL 5.2.403))。同じく「学習基本単語」(大学教養程度約4000語)のなかに、次の6個が含まれている—Birthplace (COR 4.4.23), Cold-blooded (JN 3.1.123), Fairyland (MND 2.1.60), Farm-house (WIV 2.3.91), Homespun (MND 3.1.79), Well-read (SHR 1.2.170)²。

このようなかたちで、シェイクスピアの複合造語は英語圏で今日も使われているばかりでなく、日本の英語教育のなかにも生き残っている。

これらの複合造語は、ある特質を示していると思われる。複合造語の機能からみると、例えば、1)名詞+名詞、2)副詞等+過去分詞、3)形容詞等+名詞+-edの三つに分類できる。第1のパターンの造語は、上の Bedroom, Schoolboy, Birthplace, Fairyland, Farmhouse, 第2のそれは Homespun, Well-read で、第3のそれは Cold-blooded である。またこれら8語の造語のうち、1599年までに作成されたものは6個、後の2個は1600-07年の、シェイクスピアの悲劇期に作られたものである。こういう特質については、後に詳しく考察することになろう。

まず、複合造語について定義をする必要があるだろう。

「複合(Composition)とは、独立の語を2個、またはそれ以上結合し、それが新たな1語の機能を発揮することを言う。こうしてできた語を複合語(Compound)という³」。ここでいう複合造語とは、シェイクスピアが新たに作った複合語ということである。

シェイクスピアは2132個の新語を作っている⁴。その中で複合造語は435個である。シェイクスピアの複合造語の、それぞれの作品及び時期にしめる数は次の通りである。

表1 シェイクスピアの複合造語

第1期					第3期				
作品名	各作品の総行数	造語数(A)	複合造語数(B)	Aに対するBの比率(%)	作品名	各作品の総行数	造語数(A)	複合造語数(B)	Aに対するBの比率(%)
2H6	3158	38	9	23.68	HAM	3625	118	15	12.71
3H6	2904	21	2	9.52	WIV	2733	70	18	25.71
1H6	2674	40	10	25.00	PHT	67	3	0	00.00
VEN	1194	41	10	25.00	TRO	3241	83	8	9.64

R3	3450	46	14	30.43
ERR	1777	36	8	22.22
TIT	2500	42	3	7.14
SHR	2595	43	10	23.26
LUC	1855	44	7	15.91
TGV	2201	36	6	16.67
LLL	2667	119	36	30.25
ROM	2999	73	23	31.51
計	29974	579	138	23.83 (平均)

AWW	2860	58	7	12.07
MM	2702	53	8	15.09
OTH	3278	69	13	18.84
LR	2942	91	11	12.09
MAC	2146	64	13	20.31
ANT	3016	62	7	11.29
COR	3343	61	6	9.84
TIN	2309	35	3	8.57
計	32162	767	109	14.21 (平均)

第2期				
作品名	各作品の 総行数	造語数 (A)	複合造語 数(B)	Aに対する Bの比率(%)
R2	2699	43	8	18.60
MND	2132	70	23	32.86
JN	2573	47	9	19.15
MV	2589	51	18	35.29
LC	329	28	0	00.00
1H4	3004	75	31	41.33
2H4	3230	68	21	30.88
ADO	2645	23	3	13.04
H5	3243	66	13	19.70
PP	126	5	1	20.00
JC	2450	20	2	10.00
AYL	2714	42	6	14.28
TN	2503	44	4	9.09
SON	2156	41	9	21.95
計	32393	623	148	23.76 (平均)

第4期				
作品名	各作品の 総行数	造語数 (A)	複合造語 数(B)	Aに対する Bの比率(%)
PER	2391	22	4	18.18
CYM	3292	47	13	27.66
WT	3018	32	6	18.75
TMP	2062	46	14	30.43
H8	2817	16	3	18.75
計	13580	163	40	24.54 (平均)

注：シェイクスピアの作品の並べ方については、E. K. Chambers, *William Shakespeare: A Study of the Facts and Problems* (Oxford: Clarendon Press, 1931) における創作年代に準拠し、それを便宜上4つの時期に分けている。

シェイクスピアの作品名の省略は、Schäferのそれに準拠する。

行数については、通し行数の書いてあるStanley Wells and Gary Taylor, eds., *William Shakespeare—The Complete Works—Original Spelling Edition* (Oxford: Clarendon Press, 1986) による。

総行数は、第2期と第3期がほぼ同じであるが、第3期の造語数は第2期のそれよりも多い。しかし、複合造語数は少なく、また造語に対する複合造語数の比率においても低い。第1期においては、複合造語の比率は、第2期のそれと同程度に高い。

第4期は、造語数に対する複合造語の比率に関するかぎりでは、どの時期よりも高いが、作品数が少なく、総行数も少ないので、他の時期と単純に比較はできない。このため、1行にしめる各時期の造語及び複合造語の比率という観点から、表1を補完する必要がある。

表2

時 期	第 1 期	第 2 期	第 3 期	第 4 期
1行にしめる 各時期の造語 の比率(%)	1.93	1.92	2.38	1.20
1行にしめる 各時期の複合 造語の比率 (%)	0.46	0.46	0.34	0.29

表2から言えるが、第4期においては、1行にしめる造語の比率が低いわりには（第3期の約半分）、1行にしめる複合造語の比率は高い。表1の造語数に対する複合造語の比率をみると、そのことが一層明確になるだろう。

表1と表2から言えるが、1行にしめる造語の比率では、第3期が最も高い。したがって、第3期では、造語数及びそれらが1行にしめる比率は、他の時期と比べてみると、きわだって高いと言える。しかしこの時期の複合造語について言えば、1行にしめる複合造語の比率が低いばかりでなく、造語数に対する複合造語の比率も、第1期及び第2期とくらべてみると、きわめて低い。

したがって、シェイクスピアの造語及び複合造語において、1行にしめる造語の比率が高ければ高いほど⁵、造語数に対する複合造語の比率は低くなっている（この逆もいえる）、ということが言えよう。

この理由を明らかにしなければならないが、それにはまず、複合語の構成要素を本来それが独立語として持っていたときの機能から分類し、その分類についての考察から解決の糸口を見つけることになるだろう。

分類の際には、上野景福氏の『語形成』における「複合」にかんする分類の基準をもとにして、そこにシェイクスピアの複合語をあてはめて、いくらかの補正をしたい。

表3（116頁）を参照。

この表から言えるが、最も数が多いのが複合形容詞、それとほぼあい並んで複合名詞、第3位が複合動詞である。ということは、特定の品詞に片寄っていることになるが、それを細分化すれば、特定の造語パターンに片寄っていることが明らかとなる。1-1複合名詞（名詞＋名詞）は89個、3-3-2複合形容詞（A＋過去分詞）は75個、3-4複合形容詞（形容詞＋名詞＋-ed）は57個、4-1複合動詞（副詞＋動詞）は37個、3-3-1複合形容詞（A＋過去分詞）は19個である。これらの片寄りを系統的に解釈できないかと考えて、次の表を提示したい。

表4 主要なパターンによる各時期における複合造語数

順序	区 分	第1期	第2期	第3期	第4期	合 計
1	1-1複合名詞 名詞+名詞	28	30	21	10	89
2	3-3-2複合形容詞 A+過去分詞	27	27	16	5	75
3	3-4複合形容詞 形容詞等+名詞+-ed	23	22	11	1	57
4	4-1複合動詞 副詞+動詞	6	15	9	7	37
5	3-3-1複合形容詞 A+現在分詞	12	3	3	1	19
計		91	97	60	24	277
各時期の複合造語数に対する、対応する5つの主要パターンの造語の比率(%)		69.57	65.54	54.55	60.00	63.53 (平均)

上の25の分類のうち、5分類に該当する複合語は277個、即ち全体の複合造語のうち63.53%をしめていることになる。ということは、シェイクスピアは多くの複合造語を作ったが、特定のパターンの複合造語を集中的に作っていることになる。

表4から言えるが、五つのパターンによる造語の比率は、第1期が最も高く、その次が第2期となり、第3期になると落ち込んでいるが、それが第4期になると、第2期と第3期の比率のほぼ中間に位置するくらいまで回復している⁶。

表4と表1を対比しながら考えてみると、第1期及び第2期に複合造語が多く、第3期に少ない理由は、第1期及び第2期には、五つのパターンによる複合造語が多いが、第3期にはこれらのパターンによる造語数の比率が下がっていることと関連があると理解されよう。

第3期を第1期及び第2期と比べると、造語数に対する複合造語の比率は、約10%下がっているが、それとほぼ同じ比率で、五つのパターンによる造語の比率も下がっていることになる。

これらの結果から、シェイクスピアにとって造語数に対する複合造語の比率が低くなることは、五つのパターンによる造語の比率が低くなっていることを意味する。

では、第1期と第2期では、なぜこれら五つのパターンの複合造語の比率が高いのか、それと比較して同程度の比率で第3期では低くなっているのか、しかもその比率が低くなることは何を意味するのか。これからは主にこの疑問を中心に議論を展開することになる。

まず、第1期及び第2期における五つのパターンの、現在でも比較的使われている造語を（用例の重複を可能な場合は避けて）、多さの順序に従って列挙すれば、次の表となる。

表5 五つのパターンによる主な複合造語

1-1 名詞+名詞					
Judgement-day	IH6	1. 1.	29		
Fortune-teller	ERR	5. 1.	239		
Marriage-bed	ERR	2. 1.	27		
Prayer-book	R3	3. 7.	47	OEDDOC	
Horn-book	LLL	5. 1.	49		
Loggerhead	LLL	4. 3.	204		
Candle-holder	ROM	1. 4.	38		
Lady-bird	ROM	1. 3.	3		
Worm-hole	LUC		946		
Night-owl	R2	3. 3.	183		
Schoolday	MND	3. 2.	202		
Puppy-dog	JN	2. 1.	460		
Alarm-bell	2H4	3. 1.	17		
Fashion-monger	ADO	5. 1.	94		
Chimney-top	JC	1. 1.	44		
3-3-2 複合形容詞 A+過去分詞					
New-risen, ppl. a.	1H6	1. 4.	102		
True-born, a.	1H6	2. 4.	27		
New-built, ppl. a.	SHR	5. 2.	118		
Well (-) read, ppl. a.	SHR	1. 2.	170		
Well (-) reputed, ppl. a.	TGV	2. 7.	43		
Short-lived, a.	LLL	2. 1.	54		
Well-educated, ppl. a.	LLL	1. 2.	99		
Well (-) fitted, ppl. a.	LLL	2. 1.	45		
Well (-) married, ppl. a.	ROM	4. 5.	77		
New-sprung, ppl. a.	VEN		1171		
Well-painted, ppl. a.	LUC		1443		
Well-noted, ppl. a.	JN	4. 2.	21		
Blood-stained, a.	1H4	1. 3.	107		
Downtrod, ppl. a.	1H4	1. 3.	135	VAR	
Well-bred, ppl. a.	2H4	1. 1.	26		
3-4 複合形容詞 形容詞等+名詞+-ed					
Swift-winged, a.	1H6	2. 5.	15		
Blue-veined, a.	VEN		125	NS.	
Snail-paced, a.	R3	4. 4.	53		
Logger-headed, a.	SHR	4. 1.	128		
Three-legged, a.	SHR	1. 1.	64		
Nimble-footed, a.	TGV	5. 3.	7		
Honey-tongued, a.	LLL	5. 2.	334		
Low-spirited, a.	LLL	1. 1.	250		
Three-piled, a. ¥1	LLL	5. 2.	407		
Grey-coated, a.	ROM	1. 4.	64		
Grey-eyed, a.	ROM	2. 3.	1		
Tempest-tossed, a.	ROM	3. 5.	138		
Black-faced, a.	VEN		773		
Pale-faced, a.	VEN		569		
Light-heeled, a.	MND	3. 2.	415		
4-1 複合動詞 副詞+動詞					
Over-veil, v.	1H6	2. 2.	2		
Outgrow, v.	R3	3. 1.	104		
Out-talk, v.	SHR	1. 2.	248		
Outswear, v.	LLL	1. 2.	67		
Outpray, v.	R2	5. 3.	109		
Outsleep, v.	MND	5. 1.	372		
Outlook, v.	JN	5. 2.	115		
Outscold, v.	JN	5. 2.	160		
Outstare, v.	MV	2. 1.	27	VAR	
Underprize, v.	MV	3. 2.	129		
Outdare, v.	1H4	5. 1.	40		
Outweigh, v.	2H4	1. 3.	45		
Overhang, v.	H5	3. 1.	13		
Outburn, V.	PP		7		
Outstay, v.	AYL	1. 3.	90		
3-3-1 複合形容詞 A+現在分詞					
Ill-ioding, a.	1H6	4. 5.	6		
Well-dealing, ppl. a.	ERR	1. 1.	7		
High-reaching, a.	R3	4. 2.	31		
Night-walking, ppl. a.	R3	1. 1.	72		
Well (-) beseeing, ppl.	TIT	2. 3.	56	VAR	
Heart-burning, ppl. a.	LLL	1. 1.	280		
Well-seeming, ppl. a.	ROM	1. 1.	185		
Night-wandering, ppl. a.	LUC		307		
Never-dying, a.	1H4	3. 2.	106		
Well-labouring, ppl. a.	2H4	1. 1.	127		
Well-seeing, ppl. a.	SON		148		

上の表の五つのパターンによる複合造語は、どれも作成が簡単で、初めての語ということもあって理解が困難というのが造語の特質ではあるが、これらの複合造語の場合には容易に理解されるという特質を持っている。特に、第1期で五つのパターンによる複合造語の比率が最も高いのは、シェイクスピアはこれらの使いやすい限られたパターンで複合造語を多く作り、いわば修行時代に造語を作る練習をしたことになる。しかもこれらのパターンによる造語は語彙として定着し、後の多くの人々に、作られたコンテキストに関係なく使われる新語を提供したという大きい意義も持っている。

しかし、これらの特質、意義だけが複合造語のすべてを言い得ているわけではない。その理由を明らかにしなければならないが、そのためには、複合造語が作られたコンテキストにおいて、複合

造語作成の目的を考察する必要がある。五つのパターンで作成されたものと、それだけでは対応できないものが出てくるはずである。

まず、複合造語は言葉を節約するためにつくられている。例示してみよう。

As mountain snow melts with the midday sun. I VEN 750 (1-1)

When thou hast stolen away from fairy land. II MND 2.1.60 (1-1)⁷

これらの例では、2語は無理なく結合されており、その意味も比較的容易に理解される。それぞれの造語は、‘snow on the mountains’及び‘the country of fairies’とでも書くべきものを、それぞれ mountain snow と fairy land となっているが、複合造語をつくることによって、アンダーラインを付した前置詞や冠詞が節約されている。

同じ言葉の節約でも、大胆に節約する場合もある。次に例示してみよう。

Thomas the Earl of Surrey, and himself,

Much about cock-shut time, from troop to troop

Went through the army, cheering up the soldiers. I R3 5.3.70 (3-3-2)

cock-shut は *OED*²によると‘perh. the time when poultry go to rest and are shut up...’である。

この造語は言い替えてみると、このように説明的になり、しかも長くならざるをえない。

次の例は、言葉の節約のためであると同時に、他の語と呼応するために作られたものであり、いわば二つの機能を併せ持っている。

The prince once set a dish of apple-johns before him, and told him

there were five more Sir Johns. II 2H4 2.4.5 (1-1)

*OED*²によると、apple-john は‘so called because it is ripe about S. John’s Day.’と説明されており、その apple-johns の johns は、後に出てくる Sir Johns と呼応関係にある。これは2重の意味で表現の節約になっている。

複合造語は、それ自体が頭韻のために作成される場合がある。これらの数は多く、その一部は次のものである—Fair-faced (I TIT 4.2.68)(3-4), Well-won (II MV 1.351)(3-3-2), silk stocking (II 2H4 2.2.17)(1-1), long-legged (II MND 2.2.21)(3-4)。

こういう頭韻をもっている複合造語は、例えば、その前後を引用すると、

That all the tears that thy poor eyes let fall

May run into that sink, and soaking in

Drown the lamenting fool in sea-salt tears. (I TIT 3.2.17-20) (3-1)

となっている。ここでは[t][l][f][s]の頭韻がある。こういう音と呼応して、頭韻をもった複合造語 sea-salt が、韻律上から要求されているといえよう。

脚韻のためにも複合造語がつくられる。例をあげれば、

In thee thy summer, ere thou be distill’d:

...

With beauty’s treasure, ere it be self-kill’d. II SON 6 (3-3-2)

Of prison gates;

...

The foolish Fates. II MND 1.2.36 (1-1)

等である。複合造語がなければ、これらの場合は脚韻をふむことはできないわけであり、そういう意味で、これらは脚韻のために要求された新語である。

次に、複合造語自体に意味があるばかりでなく、複合語を介して他の語と呼応するために作られるということがある。

Home-keeping youth have ever homely wits. II TGV 1.1.2 (3-3-1)

I am, my lord, as well derived as he,

As well possess'd. II MND 1.1.100 (3-3-2)

これらの複合造語 home-keeping, well-derived は、造語自体に効果があるばかりでなく、他の語 homely, well possess'd と呼応して、その対応する語を効果的に提示するために作られている。

他の語と呼応していながら、造語自体にさらに独自性があるものがある。

I would have such a fellow whipped for o'erdoing

Termagant; it out-herods Herod. III HAM 3.2.16 (4-3)

シェイクスピアの造語の中でも特に有名なこの造語は、副詞と固有名詞が結合されて作られた新しい動詞である。それは、その直後に置かれた固有名詞 Herod と呼応している。新鮮さはもとより、奇抜さと凝縮もある新語である。

これに類似している造語は、

He hath out-villain'd villainy. III AWW 4.3.305 (4-3)

であり、少し異なるが、緩やかな呼応がある例は、

My services which I have done the signiory

Shall out-tongue his complaints. III OTH 1.2.19 (4-3)

である。これらの造語は第3期及び五つのパターン以外のものとなっている。

強い感情を示すためにも複合造語が作られる。それらは愛情、侮蔑、滑稽感を表す。例示すると次の通りである。

愛情を表す造語としては、

What, lamb! what, lady-bird! I ROM 1.3.3 (1-1)

である。愛情はときとして軽蔑とないまぜになる。そういう例としては、

Marry, sir, she's the kitchen wench and all grease. I ERR 3.2.92 (1-1)

Out, you green-sickness carrion! out, you baggage!

You tallow-face! I ROM 3.5.158 (1-1)

である。

複合造語でもっと複雑な効果を目指す場合、例えば、滑稽感を引き起こす複合造語がある。そういう例としては次のものがある。

O heavens, this is my true-begotten father! who, being more than
sand-blind, high gravel-blind, knows me not. II MV 2.2.38 (3-1)

Away, you three-inch fool! I SHR 4.1.27 (3-5)

これらは第2期のものではあるが、五つのパターンからはみ出している。また五つのパターンではあるが、第1期及び第2期だけでは対応できず、第3期になることもある。例えば、Bully-rock (III WIV 1.3.2)(1-1), Counter-caster (III OTH 1.1.3)(1-1)等である。

複合語とは、独立した2語以上の結合から作られるものであるから、その特色の一つとして、同一または類似した語または音の繰り返しによる複合造語の作成が可能である。しかし同一の語の繰り返しによるシェイクスピアの複合造語はあまり単純すぎるという理由のためか、見当たらない。それに代わって、少しの差異が見られる類似音による複合造語の例としては、第1期と第2期であ

るが、五つのパターンではおさまりきらない。これらは snip-snap(I LLL 5.1.63)(6), skimble-skamble(I 1H4 3.1.154)(6)である。3語による同様の例としては、第3期の fee-faw-fum(LR 3.4.188)(6)がある。

一つの単語の母音だけに変化を与えている例としても、五つのパターンだけではおさまりきらず、tu-whit, tu-who(I LLL 5.2.928)(6)となる。

次に、類語の繰り返しとして、子音に変化をつける複合造語があるが、これらも五つのパターンからはみ出している。これらの例としては、hob-nob(II TN 4.3.9)(6), kickie-wickie(III AWW 2.3.297)(6), tirra-lira(IV WT 4.3.9)(6)がある。

これら類似した語の繰り返しは、鋏で切る音 snip-snap, ふくろうの鳴き声 tu-whit, to-who, ひばりの鳴き声 tirra-lirra 等の擬声語であることが一つの特色である。

類似した語の繰り返しによる第2の特色は、音によっておかしみを示すことであろうが、これも第3期、かつ五つのパターン以外のものである。

He wears his honour in a box unseen,

That hugs his kicky-wicky here at home. III AWW 2.3.297 (6)

この引用のように、wife というべきところを kicky-wicky として、音の面白さによっておかしみをだしている。

その第3の特色は、母音一つだけ変えて、他は類音を繰り返し、そのことによって状態、性質を示すことである。これは第2期ではあるが、五つのパターンのそれによる造語ではない。

And such a deal of skimble-skamble stuff

As puts me from my faith. II 1H4 3.1.154 (6)

上の引用の skimble-skamble は、clitter-clatter や tittle-tattle と同様に、「混乱している」(confused)状態を示している。

これまで考えてきたように、複合造語作成の多くの目的は、第1期及び第2期、そして五つのパターンで対応できる。そしてこれらのなかには個性的な造語もあるにはある。しかしこれらの目的のより広い考察や独自の効果を持った造語ということになると、どうしても五つのパターン以外のものもおよび、時期も第3期になっている。

このことをより明らかにするために、第3期に絞って、まず、次の1組の造語を引用しよう。

... if the assassination

Could trammel up the consequence, and catch

With his surcease success; that but this blow

Might be the be-all and the end-all—here,

But here, upon this bank and shoal of time,

We'd jump the life to come. MAC 1.7.5 (2-3-1)

ここにシェイクスピアの複合造語 be-all, end-all が2つある。これらは単音節の簡単なアングロ・サクソン語系の語を2つ結びあわせて、効果的で、凝縮された造語となっている。これらは他の語では置き換えがきかない個性的な造語である。本稿の冒頭に引用した Schoolboy のように、直接私たちに役にたつ具象語でなくとも、これらは使われたこの箇所でも効果的で多くの人々に強い印象を与えるばかりでなく、Dickens などの作家にも引用され、今日でも気のきいた人たちの使うところとなっている。こういう造語こそきわめてシェイクスピア的造語となるが、これが五つのパターン以外のものとなり、かつ第3期に生まれたものである。

第3期になると、他の類義語(句)で置き換えては、文そのものが死んでしまう個性的な造語となるが、それは二つの点において個性的であることを示している。即ち、五つのパターンの造語法による複合造語も勿論多いが、これらも個性的となり、かつそれとあいまって、それまで集中していた造語パターンが多様化、拡散化へと向かい、それらの造語も造語法もより個性的となる、とでもいえるのではなからうか。

第3期の代表作の一つである *King Lear* を取り上げて、このことをより具体的に考察してみよう。この作品には複合造語は11個あり、五つのパターンに属するものは次の五つである。

Glass eye (4.6.174) (1-1), Thunder-bearer (2.4.230) (1-1), Heart-struck (3.1.7) (3-3-2), Milk-livered (5.2.50) (3-4), Tender-minded (5.3.31) (3-4), Out-frown (5.3.6) (4-1) である。他のパターンに属するものは、Dragon's tail (1.2.140) (1-2), A-height (4.6.58) (5), Squire-like (2.4.217) (5), Fee-faw-fam (3.4.188) (6) 及び Hardock (4.4.4) (7) である。

最初は、五つのパターンのなかから二つ取り出して考えてみよう。一つは、

For thee, oppressed king, am I cast down;

Myself could else out-frown false fortune's frown. (5.3.6)

で、ここには頭韻が4回繰り返されているが、その一つとして複合造語 out-frown も組み込まれている。また造語を通じて強勢のおかれた2個の frown が呼応関係にあり、他の frown よりこの造語のほうが意味上優位に立っている(「にらみかえす」)。この造語によって、話手 Cordelia の、運命の女神の脅威に対する侮蔑感が、きわめて強く、個性的に表現されているといえよう。

他は、

Alb. It will come,

Humanity must perforce prey on itself,

Like monsters of the deep.

Gon.

Milk-liver'd man!

That bear'st a cheek for blows, a head for wrongs. (4.2.50) (3-4)

である。Albany 公夫妻の激しい口論のなかに、複合造語が使われていることは注目に値する。夫は、父王 Lear にたいする妻の獣にも劣る行為を責めるが、それに対して Goneril は、激しくやり返す。その時の、夫に対する彼女の最初の言葉が複合造語 Milk-liver'd である。milk とは、*Macbeth* にもあるように、本来、やさしく、豊かな人間性('the milk of human kindness', 1.5.18)を意味していたが、ここでは「乳白色の肝臓をもった」即ち、臆病者の意味で使われている。視覚的、反語的效果のある造語が、夫への呼びかけとして強調されているが、これは主要パターンによる造語ではあるが、個性的であり、効果的であろう。

五つのパターン以外からの用例についても考えてみよう。

そのうちの一つ dragon's tail を取り上げてみると、表3 (1-2) からいえるが、シェイクスピアの複合造語のなかで、属格語尾 -s をもつものは全体で10個あり、Dragon's tail はそのうちの1個である。これは、「月または惑星の降交点」の意で使われていた造語である。

作りかたそのものも個性的であるが、そのコンテキストにおいて考えても、個性的であることがわかる。

My father compounded with my mother under the dragon's tail,

and my nativity was under ursa major; so that it follows that

I am rough and lecherous. (1.2.140)

全体が卑猥な文のなかに置かれた dragon's tail は、dragon が 'a wanton' の意を持ち、tail は 'the female pudent'⁸ の意を持っている。シェイクスピアは dragon's tail の複合造語を作ることによって、天文学的なことを意図しながらも、その裏の意味で、同時に、卑猥なことも掛けている、といえよう。個性的な造語の一つであるゆえんである。

次に、A-height (5) (前置詞+名詞) と Squire-like (5) が含まれる複合副詞は全体で 8 個しかないが、この作品では 2 個ある。類似の音を 3 度繰り返した重複 Fee-faw-fum (6) は、シェイクスピアの複合造語のなかでは見当たらない貴重なものである。混成 (7) の一つの Hardock は、創作時から問題となっている語の一つであり、これには異文がある。この作の First Quarto 版では 'hor-docks', First Folio 版では 'hardokes' とあったが、Third Folio 版で hardock となったものである。現在でも依然としてはっきりしない語である。即ち、これは Hoar 及び Dock から、o が欠落して Hardock (burdock—ゴボウの意) が作られたと考えられる⁹。これはカバン語 (混成) の変種とでもいうべきであろうか。

このように、この作品では、複合造語のパターンは拡散化し、かつ造語自体も個性化していることが理解されよう。

シェイクスピアにとって複合造語は、第 1 期及び第 2 期においては、いわば造語を作る練習にも似て、五つのパターンを十二分に使った。それらは作成が比較的簡単で、かつ語彙として定着する新語を提供したという意義も持っていた。そしてそれらのいくらかは、わが国の「学習基本単語」をはじめとして、現代においても使われている。

しかし、シェイクスピアが個性的な造語を作るということは、造語を多く作りながらも、それに反比例して複合造語の比率を低くすることを意味し、それは複合造語を作り出す五つのパターンに依拠しつつもその比率を低くし、拡散化、多様化の方向へ向かうことを意味した。

造語も造語法もともに個性的となってはじめて、シェイクスピアは第 3 期において文体的に成熟した作家になったといえよう。

注

表 3 シェイクスピアの複合造語の分類

1 複合名詞 99個

1-1 名詞+名詞 89個

Court-hand	2H6	4. 2.100	
Hobnail	2H6	4.10. 63	OEDDOC
Judgement-day	1H6	1. 1. 29	
Bass-viol	ERR	4. 3. 23	
Calf-skin	ERR	4. 3. 18	
Fortune-teller	ERR	5. 1.239	
Kitchen-wench	ERR	3. 2. 96	
Marriage-bed	ERR	2. 1. 27	
Day-bed	R3	3. 7. 72	+, Var.
Prayer-book	R3	3. 7. 47	OEDDOC
Bow-hand	LLL	4. 1.135	
Charge-house	LLL	5. 1. 87	+
Cuckoo-bud	LLL	5. 2.906	
Eye-beam	LLL	4. 3. 28	
Dey-woman	LLL	1. 2.136	+

Horn-book	LLL 5. 1. 49	
Lady-smock	LLL 5. 2.905	
Loggerhead	LLL 4. 3.204	
Schoolboy	LLL 5. 2.403	
Candle-holder	ROM 1. 4. 38	
Court-cupboard	ROM 1. 5. 8	+
Flirt-gill	ROM 2. 4.162	+
Elf-lock	ROM 1. 4. 90	VAR.
Lady-bird	ROM 1. 3. 3	
Rat-catcher	ROM 3. 1. 78	
Tallow-face	ROM 3. 5.158	PA., Greene Disput., etc. 17
Mountain snow	VEN 750	
Worm-hole	LUC 946	
Night-owl	R2 3. 3.183	
Water-drop	R2 4. 1.262	
Bedroom	MND 2. 2. 51	
Church-way	MND 5. 1.389	
Eye-ball	MND 3. 2.369	
Fairyland	MND 2. 1. 60	
Moonbeam	MND 3. 1.176	
Prison-gate	MND 1. 2. 36	
Schoolday	MND 3. 2.202	
Sea-maid	MND 2. 1.154	
Ox-head	JN 2. 1.292	
Puppy-dog	JN 2. 1.460	
Land-rat	MV 1. 3. 24	
Ballad-monger	1H4 3. 1.130	
Fern-seed	1H4 2. 1. 96	
Newsmonger	1H4 3. 2. 25	
Pupil age	1H4 2. 4.106	
Tallow catch	1H4 2. 4.252	+
Thumb-ring	1H4 2. 4.365	
Alarm-bell	2H4 3. 1. 17	
Apple-John	2H4 2. 4. 5	
Night-fly	2H4 3. 1. 11	
Silk stocking	2H4 2. 2. 17	
Watch-case	2H4 3. 1. 17	
Candle-waster	ADO 5. 1. 18	PA., Ben Jonson
Fashion-monger	ADO 5. 1. 94	PA., Marston Sco. Villanie 166
Hare-finder	ADO 1. 1.186	
Chimney-top	JC 1. 1. 44	
Foster-nurse	AYL 2. 2. 40	
Bumbailiff	TN 3. 4.194	
Water-fly	HAM 5. 2. 84	
Bully-rock	WIV 1. 3. 2	+
Eye-wink	WIV 2. 2. 72	
Farm-house	WIV 2. 3. 91	
Hodge-pudding	WIV 5. 5.159	+
Love-letter	WIV 2. 1. 1	
Twin-brother	WIV 2. 1. 74	
Copper-nose	TRO 1. 2.115	
Arch-villain	MM 5. 1. 57	
Garden-house	MM 5. 1.212	

Counter-caster	OTH 1. 1. 31	+
Clyster-pipe	OTH 2. 1.178	
Joint-ring	OTH 4. 3. 73	+
Glass eye	LR 4. 6.174	+
Thunder-bearer	LR 2. 4.230	
Hedge-pig	MAC 4. 1. 2	
Summer-cloud	MAC 3. 4.111	
Water-rug	MAC 3. 1. 93	+
Sea-wing	ANT 3.10. 20	NW
Birthplace	COR 4. 4. 23	
King-killer	TIM 4. 3.382	
Herb-woman	PER 4. 6. 92	
Title-page	PER 2. 3. 4	OEDDOC
Chimney-piece	CYM 2. 4. 81	
Eye-glass, n.	WT 1. 2.268	
Footfall	TMP 2. 2. 12	
Grass-plat	TMP 4. 1. 73	
Pig-nut	TMP 2. 2.172	
Watch-dog	TMP 1. 2.383	
Broomstaff	H8 5. 4. 57	
Springhalt	H8 1. 3. 13	
1-2 属格複合語 10個		
Dog's-leather	2H6 4. 2. 26	+
Day's-work	R3 2. 1. 1	
Death's-face	LLL 5. 2.616	+
Money's-worth	LLL 2. 1.137	
Death's-head	MV 1. 2. 55	
Neat's tongue	MV 1. 1.112	
Boys'-play	1H4 5. 4. 76	
Dragon's tail	LR 1. 2.140	
Swan's-down	ANT 3. 2. 48	
Wealsman	COR 2. 1. 59	+
2 複合名詞その2 65個		
2-1 形容詞+名詞 14個		
Blue coat	1H6 1. 3. 47	
Frenchwoman	2H6 1. 3.143	
Salt rheum	ERR 3. 2.131	
Gentlefolk	R3 1. 1. 95	
Black man	TGV 5. 2. 12	OS., NS.
Half-cheek	LLL 5. 2.620	+
French crown	MND 1. 1. 97	PA., 1. 2. 99
Madwoman	MV 4. 1.445	OEDDOC
Blue-cap	1H4 2. 4.392	
Dry-nurse, n.	WIV 1. 2. 3	
East Indies	WIV 1. 3. 79	
Half-cap	TIM 2. 2.221	+
High-day, int.	TMP 2. 2.190	+, VAR.
Mid-season	TMP 1. 2.239	+
2-2 代名詞+名詞 3個		
Self-slaughter	HAM 1. 2.132	

Self-offence	MM 3. 2.280	
Self-abuse	MAC 3. 4.142	
2-3-1 動詞+名詞 14個		
Screech-owl	2H6 1. 4. 21	
Crack-hemp	SHR 5. 1. 46	+
Flap-dragon, n.	LLL 5. 1. 45	+
Please-man	LLL 5. 2.463	+
Push-pin	LLL 4. 3.169	
Crop-ear	1H4 2. 3. 72	+
Skim-milk	1H4 2. 3. 36	VAR.
Sneak-cup	1H4 3. 3. 99	VAR.
Leap-frog	H5 5. 2.142	
Clod-poll	TN 3. 4.208	
Clot-poll	TRO 2. 1.128	
Clack-dish	MM 3. 2.135	+
Be-all, n.	MAC 1. 7. 5	
End-all	MAC 1. 7. 5	
2-3-2 -ing+名詞 2個		
Tiring-house	MND 3. 1. 4	
Murdering piece	HAM 4. 5. 95	
2-4 名詞+動詞 3個		
Bitter-sweeting	ROM 2. 4. 83	+
Cheese-paring	2H4 3. 2.332	
Buck-washing	WIV 3. 3.164	+
2-5 副詞+名詞 9個		
Overview, n.	LLL 4. 3.175	+
After-supper	MND 5. 1. 34	
By-room	1H4 2. 4. 32	
Under-skinker	1H4 2. 4. 26	+
After-time	2H4 4. 2. 52	NS.
Outbreak, n.	HAM 2. 1. 33	
Overgrowth	HAM 1. 4. 27	
Under-fiend	COR 4. 5. 98	
Under-hangman	CYM 2. 3.135	
2-6 動詞+副詞 2個		
Sneak-up, n.	1H4 3. 3. 99	VAR.
Go-between	WIV 2. 2.273	
2-7 副詞+動詞 3個		
Upshoot, n.	LLL 4. 1.138	
Still-stand	2H4 2. 3. 64	
Upcast, n.	CYM 2. 1. 2	
2-8 語群複合語 4個		
Slug-a-bed	ROM 4. 5. 2	
Wild goose chase	ROM 2. 4. 75	
Dead man's finger	HAM 4. 7.173	
Jack-a-Lent	WIV 5. 5.134	PA., 3. 3. 27

2-9 その他 11個

Grannam	R3	2. 4. 30	Var.
Out-shining, vbl. n. ¥2	R3	1. 3. 268	See Out-shining, ppl. a. ¥2
Pouncet-box	1H4	1. 3. 38	
Kickshaw	2H4	5. 1. 29	
To-be	SON	81	
Miching malicho	HAM	3. 2. 146	+
Nayword ¥1	WIV	2. 2. 131	
Picked-hatch	WIV	2. 2. 19	+
Mountebank, v.	COR	3. 2. 132	+
So-forth	WT	1. 2. 218	
Well-saying, vbl. n.	H8	3. 2. 152	NW.

3 複合形容詞 175個

3-1 名詞+形容詞 14個

Churchlike, a.	2H6	1. 1. 247	
Fire-new, a.	R3	1. 3. 256	
Sea-salt, a.	TIT	3. 2. 20	
Dog-weary, a.	SHR	4. 2. 60	
Silver-white, *a. and n.	LLL	5. 2. 905	
Mist-like, *a. and adv.	ROM	3. 3. 73	
Orange-tawny, *a. and n.	MND	3. 1. 129	
Gravel-blind, a.	MV	2. 2. 38	
Snail-slow, a.	MV	2. 5. 47	
Self-glorious, a.	H5	5 Prol. 20	
War-proof, sb. and *a.	H5	3. 1. 18	
Cat-like, *a. (adv.)	AYL	4. 3. 116	
Self-substantial, a.	SON	1	
Bear-like, *a. and adv.	MAC	5. 7. 2	

3-2 形容詞+形容詞 0個

Forcible feeble [2H4 3. 2. 179]

3-3-1 A+現在分詞 19個

Well(-)forewarning, ppl. a.	2H6	3. 2. 85	
Blood-sucking, vbl. n. and *ppl. a.	3H6	4. 4. 22	
Ill-boding, a.	1H6	4. 5. 6	
Well-dealing, ppl. a.	ERR	1. 1. 7	
High-reaching, a.	R3	4. 2. 31	
Night-walking, ppl. a.	R3	1. 1. 72	
Well(-)beseeming, ppl.	TIT	2. 3. 56	VAR.
Home-keeping, a.	TGV	1. 1. 2	
Heart-burning, ppl. a.	LLL	1. 1. 280	
Well-seeming, ppl. a.	ROM	1. 1. 185	
Never-ending, a.	LUC	935	OEDDOC
Night-wandering, ppl. a.	LUC	307	
Never-dying, a.	1H4	3. 2. 106	
Well-labouring, ppl. a.	2H4	1. 1. 127	
Well-seeing, ppl. a.	SON	148	
Well-weighing, ppl. a.	AWW	4. 3. 203	
Shipwrecking, ppl. a.	MAC	1. 2. 26	
Spirit-stirring, a.	OTH	3. 3. 352	

Well-sailing, ppl. a.	PER	4. 4. 17	
3-3-2 A+過去分詞 75個			
Ill-got, a.	3H6	3. 2. 46	
New-risen, ppl. a.	1H6	1. 4.102	
True-born, a.	1H6	2. 4. 27	
Shipwrecked, ppl. a.	ERR	1. 1.115	
Cock-shut	R3	5. 3. 70	
Ill-used, pa. pple. and ppl. a.	R3	4. 4.396	Var.
New-built, ppl. a.	SHR	5. 2.118	
Overblown, ppl. a.¥1	SHR	5. 2. 3	
Well(-)read, ppl. a.	SHR	1. 2.170	
Well(-)derived, ppl. a.	TGV	5. 4.146	
Well(-)reputed, ppl. a.	TGV	2. 7. 43	
High-borne, a.	LLL	1. 1.173	
New-devised, ppl. a.	LLL	1. 2. 66	
Overparted, a.	LLL	5. 2.588	
Short-lived, a.	LLL	2. 1. 54	PA., 4. 1. 15
Well-accomplished, ppl.	LLL	2. 1. 56	+
Well-educated, ppl. a.	LLL	1. 2. 99	
Well(-)fitted, ppl. a.	LLL	2. 1. 45	+
Uproused, pa. pple. and ppl. a.	ROM	2. 3. 40	
Upturned, ppl. a.	ROM	2. 2. 29	
Well(-)married, ppl. a.	ROM	4. 5. 77	
New-fallen, a.	VEN	354	
New-sprung, ppl. a.	VEN	1171	
Up-pricked, pa. pple.	VEN	271	
Hell-born, a.	LUC	1519	
High-pitched, a.	LUC	41	
Well-painted, ppl. a.	LUC	1443	
Right-drawn, a.	R2	1. 1. 46	
Homespun, a., *n.	MND	3. 1. 79	
Well-possessed, pa. pple.	MND	1. 1.100	+
Well(-)mounted, ppl. a.	JN	5. 6. 42	
Well-noted, ppl. a.	JN	4. 2. 21	
Overweathered, ppl. a.	MV	2. 6. 18	+
Well-won, ppl. a.	MV	1. 3. 51	VAR.
Blood-stained, a.	1H4	1. 3.107	
Down-fallen, ppl. a.	1H4	1. 3.135	VAR.
Downtrod, ppl. a.	1H4	1. 3.135	VAR.
Trade-fallen, a.	1H4	4. 2. 32	+
True-bred, a.	1H4	1. 2.206	
Fly-bitten, ppl. a.	2H4	2. 1.159	
Outbreathed, ppl. a.¥2	2H4	1. 1.108	
Overscutched, ppl. a.	2H4	3. 2.340	+, VAR.
Still-born, a.	2H4	1. 3. 64	
Well-bred, ppl. a.	2H4	1. 1. 26	
Well(-)conceited, a.	2H4	5. 1. 39	+
Nook-shotten, a.	H5	3. 5. 14	
Twin-born, a.	H5	4. 1.251	
War-worn, a.	H5	4 Prol. 26	
Well-foughten, ppl. a.	H5	4. 6. 18	+
Well-hallowed, ppl. a.	H5	1. 2.293	

Well-saved, ppl. a.	AYL 2. 7.160	
Self-killed, pa. pple.	SON 6	
Unlocked, ppl. a.	SON 52	
Well(-)refined, ppl. a.	SON 85	
Chop-fallen, a.	HAM 5. 1.212	
Down-gyved, ppl. a.	HAM 2. 1. 80	+
Well-took, ppl. a.	HAM 2. 2. 83	+
Well-behaved, ppl. a.	WIV 2. 1. 59	
Well(-)composed, ppl. a.	TRO 4. 4. 79	
Well-ordered, ppl. a.	7TRO2. 2.180	
Well-entered, ppl. a.	AWW2. 1. 6	+
Well-allied, ppl. a.	MM 3. 2.109	
Well-warranted, ppl. a.	MM 5. 1.254	
Well-wished, ppl. a.	MM 2. 4. 27	+
High-wrought, a.	OTH 2. 1. 2	
Well(-)desired, ppl. a.	OTH 2. 1.206	OED2
Wind-shaked, ppl. a.	OTH 2. 1. 13	+
Heart-struck, ppl. a.	LR 3. 1. 7	
Shard-born, a.	MAC 3. 2. 42	
Well-divided, ppl. a.	ANT 1. 5. 53	
Full-grown, a.	PER 4 Cho. 16	OEDDOC, ×OED2
Well(-)descended, ppl. a.	CYM 5. 5.303	
Over-dyed, ppl. a.	WT 1. 2.132	+
Weather-bit, pppl. a.	WT 5. 2. 60	+
Cloud-capt, a.	TMP 4. 1.152	

3-4 形容詞+名詞+-ed 57個

Soft-hearted, a.	2H6 3. 2.307	
Bold-faced, ppl. a.	1H6 4. 6. 12	
Raw-boned, a.	1H6 1. 2. 35	
Swift-winged, a.	1H6 2. 5. 15	
Blue-veined, a.	VEN 125	NS.
Hunchbacked, a.	R3 4. 4. 81	Var.
Snail-paced, a.	R3 4. 4. 53	
Fair-faced, a.	TIT 4. 2. 68	VAR.
Logger-headed, a.	SHR 4. 1.128	
Near-legged, a.	SHR 3. 2. 57	
Three-legged, a.	SHR 1. 1. 64	
Nimble-footed, a.	TGV 5. 3. 7	
Honey-tongued, a.	LLL 5. 2.334	
Low-spirited, a.	LLL 1. 1.250	
Three-piled, a. ¥1	LLL 5. 2.407	
Grey-coatead, a.	ROM 1. 4. 64	
Grey-eyed, a.	ROM 2. 3. 1	
Tempest-tossed, a.	ROM 3. 5.138	
Well(-)flowered, ppl. a.	ROM 2. 4. 64	
Black-faced, a.	VEN 773	
Pale-faced, a.	VEN 569	
Rose-cheeked, a.	VEN 1	
Thick-sighted, a.	VEN 136	
Rug-headed, a.	R2 2. 1.156	
Time-honoured, a.	R2 1. 1. 1	
Barefaced, a.	MND 1. 2.100	

Black-browed, ppl. a.	MND 3. 2.387	
Hard-handed, a.	MND 5. 1. 72	
Light-heeled, a.	MND 3. 2.415	
Long-legged, a.	MND 2. 2. 21	
Cold-blooded, a.	JN 3. 1.123	
Deep-mouthed, a.	JN 5. 2.173	
Green-eyed, a.	MV 3. 2.110	
Two-headed, a.	MV 1 1. 50	
Wry-necked, a.	MV 2. 5. 30	
Young-eyed, a.	MV 5. 1. 62	
Fat-witted, a.	1H4 1. 2. 2	
Fire-eyed, a.	1H4 4. 1.114	
Flame-coloured, a.	1H4 1. 2. 11	
Foul-mouthed, a.	1H4 3. 3.122	
White-bearded, a.	1H4 2. 4.509	NS.
Ill-tempered, a.	JC 4. 3.115	PA., 4. 3.116
Narrow-mouthed, a.	AYL 3. 2.211	
Cross-gartered, ppl. a.	TN 2. 5.167	+
Swift-footed, a.	SON 19	
Hot-blooded, a.	WIV 5. 5. 2	
Idle-headed, a.	WIV 4. 4. 36	+
Well-famed, ppl. a.	TRO 4. 5.173	
Red-tailed, a.	AWW4. 5. 7	
Bald-pated, a.	MM 5. 1.357	
Ill-starred, a.	OTH 5. 2.272	
Rose-lipped, a.	OTH 4. 2. 63	
Milk-livered, a.	LR 5. 2. 50	
Tender-minded, a.	LR 5. 3. 31	NS.
Cold-hearted, a.	ANT 3.13.158	
Large-handed, a.	TIM 4. 1. 11	+
Full-hearted, a.	CYM 5. 3. 7	
3-5 その他10個		
Over-tedious, a.	1H6 3. 3. 43	
Three-inch, a.	SHR 4. 1. 27	
Heart-sore, a.	TGV 1. 1. 30	
Worn-out, ppl. a.	LUC 1350	+
Far-off, a.	MND 4. 1.194	
Three-foot, a.	MND 2. 1. 52	+
Stockish, a.	MV 5. 1. 81	
Lack-lustre, *a. and sb.	AYL 2. 7. 21	
Under-honest, a.	TRO 2. 3.133	
Over-credulous, a.	MAC 4. 3.120	
4 複合副詞 64個		
4-1 副詞+動詞 37個		
Over-ripen, v.	2H6 1. 2. 1	
Over-veil, v.	1H6 2. 2. 2	
Outgrow, v.	R3 3. 1.104	
Out-talk, v.	SHR 1. 2.248	
Outswear, v.	LLL 1. 2. 67	
Overperch, v.	ROM 2. 2. 66	+, VAR.
Outpray, v.	R2 5. 3.109	

Outsleep, v.	MND 5. 1.372	
Outlook, v.	JN 5. 2.115	
Outscold, v.	JN 5. 2.160	
Overstain, v.	JN 3. 1.236	OED2
Outdwell, v.	MV 2. 6. 3	+
Outstare, v.	MV 2. 1. 27	VAR.
Underprize, v.	MV 3. 2.129	
Outdare, v.	1H4 5. 1. 40	
Outweigh, v.	2H4 1. 3. 45	
Over-cool, v.	2H4 4. 3. 98	
Upswarm, v. trans.	2H4 4. 2. 30	
Overhang, v.	H5 3. 1. 13	
Outburn, v.	PP 7	
Outstay, v.	AYL 1. 3. 90	
Over-leaven, v.	HAM 1. 4. 29	
Overteem, v.	HAM 2. 2.531	
Outswell, v.	TRO 4. 5. 9	
Overhold, v.	TRO 2. 3.142	+
Overpay, v.	AWW3. 7. 16	
New-create, v.	OTH 4. 1.287	
Outfrown, v.	LR 5. 3. 6	
Outroar, v.	ANT 3.13.127	
Overbeat, v.	COR 4. 5.135	OEDDOC
Out-prize, v.	CYM 1. 4. 88	+
Outsell, v.	CYM 2. 4.102	
Outsweeten, v.	CYM 4. 2.224	
Overrate, v.	CYM 1. 4. 41	
Underpeep, v.	CYM 2. 2. 20	
New-form, v.	TMP 1. 2. 83	
Overstink, v.	TMP 4. 1.184	+
4-2 名詞+動詞 3個		
Counter-seal, v.	COR 5. 3.205	+
Land-damn, v.	WT 2. 1.143	+
Weather-fend, v.	TMP 5. 1. 10	
4-3 その他 24個		
Over-eye, v.	LLL 4. 3. 80	+
Overglance, v.	LLL 4. 2.135	+
Double-lock, v.	VEN 448	
Overpower, v.	R2 5. 1. 31	
Overcanopy, v.	MND 2. 1.251	
Overname, v.	MV 1. 2. 39	
Undervalue, v.	MV 2. 7. 53	+
Overpost, v.	2H4 1. 2.171	+
Outvoice, v.	H5 5 Prol. 10	
Overgreen, v.	SON 112	+
Oversnow, v.	SON 2	
Out-Herod, v.	HAM 3. 2. 16	
Over-office, v.	HAM 5. 1. 87	+
Oversize, v. ¥2	HAM 2. 2.484	+
Out-villain, v.	AWW4. 3.305	
Off-cap, v.	OTH 1. 1. 10	+

Out-tongue, v.	OTH 1. 2. 19	
Over-red, v.	MAC 5. 3. 14	+
Uproar, v.	MAC 4. 3. 99	
Over-picture, v.	ANT 2. 2.205	
Undercrest, v.	COR 1. 9. 71	
Out-crafty, v.	CYM 3. 4. 15	+
Outlustre, v.	CYM 1. 4. 78	
Outpeer, v.	CYM 3. 6. 86	
5 複合副詞 8個		
Whereuntil, adv.	LLL 5. 2.493	
A-high-lone, adv. phr.	ROM 1. 3. 27	VAR.
High-lone, adv.	ROM 1. 3. 37	+, VAR.
Downstairs	1H4 2. 4.112	
Upstairs, *adv., sb., and a.	1H4 2. 4.112	
A-height, phr.	LR 4. 6. 58	
Squire-like, a. and *adv.	LR 2. 4.217	
A-hold, adv. phr.	TMP 1. 1. 52	+
6 重複 9個		
Snip-snap, *adv. (and int.)	LLL 5. 1. 63	
Tu-whit, Tu-who, int. (n.)	LLL 5. 2.928	
Skimble-skamble, *a., n., and adv.	1H4 3. 1.154	
Pibble-pabble	H5 4. 1. 72	NS.
Hob-nob, phrase and adv.	TN 3. 4.262	
Kickie-wickie	AWW2. 3.297	+, VAR.
Fee-faw-fum	LR 3. 4.188	
Tirra-lirra	WT 4. 3. 9	
Bow-wow, *int. and n.	TMP 1. 2.382	
7 混成 3個		
Bold-beating, a.	WIV 2. 2. 28	+, VAR.
Bubukle	H5 3. 6.108	+
Hardock	LR 4. 4. 4	+, VAR.
8 その他 13個		
An't	LLL 5. 2.460	+, VAR., PA., Pappé w. H
Skains mate	ROM 2. 4.162	+
Portcullis, v.	R2 1. 3.167	
'Sblood, phr.	1H4 1. 2. 82	
Bona-roba	2H4 3. 2. 26	
Bawcock	H5 3. 2. 25	
'Slid, int.	WIV 3. 4. 24	
Hic jacet	AWW3. 6. 66	
'Twas	OTH 3. 3.158	
'Twere	MAC 1. 7. 1	
In't	TMP 1. 2.304	
Is't	TMP 1. 2.245	
Soothsay, v.	ANT 1. 2. 52	

・複合造語の最初の構成要素である副詞の取扱いは困難な問題を含んでいる（副詞ととるか接頭辞ととるか——後者の場合は複合語ではなくなる）。これは語学者によっても辞書によっても一定していない。例えば、上野氏 (p. 30) の複合語——副詞+名詞の項目に *underpass* があるが、この *under-* は *OED*² によると接頭辞

である。また Jespersen (p. 160)の複合語——particle (副詞)+substantive (名詞)の項目に under-agent があるが、この under-も *OED*²によると接頭辞である。なお *Webster*³には under の項目に接頭辞がそもそもない。こういうこともあって、複合語の先頭にくる副詞については、やや大まかな扱い方をせざるをえない。

・例えば、Court-hand で品詞の明示がないのは、名詞ということである。時には、n.と表記されていて、名詞の品詞の表記に一定したところがないが、それは *OED*²の表記をそのまま踏襲している。

- ・1つの語に2つ以上の品詞が表記されている場合は、取り上げた語の該当する品詞に*を付している。
- ・OS, NS とは、OS においても NS においても造語として収録されているもの。OS の造語のいくらかは、NS においては消えていくものもある (OS, NS については注4を参照)。
- ・NS (または *OED*²) は、それぞれの版で初めてシェイクスピアの造語として収録されたもの。
- ・NW とは Nonce-word の略。
- ・幕、場面、行数は *OED*²による。
- ・OEDDOC とは、Schäfer が antedating または parallel citation として、*OED*¹及び OS 以外から彼のリストに独自に付け加えたもの。これらはどれも *OED*²に含まれていない。
- ・+は廃語。
- ・Var.は他に異文があること。
- ・[]でくくってあるのは、シェイクスピアの語として初出で造語に相当するが、*OED*²の表記通りに記したものの。ただし造語の数には含めていない。
- ・例えば、n.¥2 は n.²のことである。

1 小西友七、安井稔、國廣哲彌 (編集主幹)、『小学館英和中辞典』(東京：小学館、1980年)による。

2 本稿を通じて、シェイクスピアの造語、複合造語のスペリングは全て *OED*²の見出し語による。Act, scene及びline も *OED*²による。引用のテキストはThe Globe editionによる。

3 上野景福、『語形成』(東京：研究社、1955年)、14頁。

Otto Jespersenはその著 *A Modern English Grammar on Historical Principles—Part VI, Morphology* (London: George Allen & Unwin Ltd, 1954)で、Compoundsを次のように定義している。“A Compound may perhaps be provisionally defined as a combination of two or more words so as to function as one word, as a unit” (p. 134).

4 シェイクスピアの造語論の古典的な著作は、Wilhelm Franz, *Die Sprache Shakespeares in Vers und Prosa*, (Halle: Niemeyer, 1939) (齊藤静、山口秀夫、太田朗共訳『シェイクスピアの英語—詩と散文』(東京：篠崎書林、1958年))であり、Franzはそのなかで「造語論」—「複合詞」の考察をしている。しかし、シェイクスピアの複合造語の用例として提示しているほとんどすべては、シェイクスピアの造語ではない。基本的に必要なことは、まず最初は、シェイクスピアが作ったと文献上認定できるものから成り立つSchäferのリストに正しく依拠すべきであろう。

Jürgen Schäfer, *Documentation in the O.E.D.—Shakespeare and Nashe as Test Cases* (Oxford: Clarendon Press, 1980)によると、シェイクスピアの造語数は2049個である。Schäferはシェイクスピアの造語のリストを発表する際、*OED*¹、同Supplement(1933)及びS.O.E.D.におけるシェイクスピアの造語ばかりでなく、そこからもれている造語(antedating及びparallel citation)も付け加えている。これがシェイクスピアの造語の完全なリストであったが、筆者は *OED*¹及び *OED*¹ Supplement (1933) (以後OSとする)、新Supplement (1972-86) (以後NSとする)及び *OED*²を読み、即ち、*OED*に絞りながらも、*OED*に関する新旧全ての版を読み、Schäferと同じ定義のもとに含めるものと除外すべきものを明確にして、Schäferのリストの補正を行い、シェイクスピアの造語の可能な限り完全なリストを、*OED*²の検索作業が終わった今回はじめて、作成することができた。この結果シェイクスピアの造語数は2132個となった。

Schäferはシェイクスピアの造語のリストを作るさい、資料とした辞書の見出し語をすべて対象としたわけではない。Schäferは、‘main lemma status’の語及び‘fine print main lemmas’を含め、新語義の初出、‘sub-entries’, ‘small-type lemmas’, ‘articles’, ‘first citations in brackets’及び‘initial references’を除外した(pp. 9-10)。

このSchäferがたてた原則からすれば、彼のリストに含めるべきであったが見落とされたもの6個(Black man; Eft, a.; Hurricano; Inherce, v.; Split, v; Stanza)。

Schäferがたてた原則からすれば、彼のリストから排除すべき語1個(Supervision)。

*OED*¹でsmall-type lemmasであったため、Schäferのリストから排除されていたが、*OED*²で他の見出し語と同じ見出し語となったため、筆者のリストに含めたもの59個(Unaidable, a.; Uncuckolded, ppl. a.等)。

Schäferが調査の対象とできなかったNSで新たに新語となったもの12個(Adsum; After-time; Athenian, a.; Blue-veined, a.; Good thing; Nessus; Pibble-pabble; 'Re; Rialto; S'; Tender-minded, a.; White-bearded, a.)。

OED²で新たに新語となったもの7個(Overstain, v.; Tranect; Required, ppl. a.; Well(-)desired, ppl. a.; Obstruct, n.; Pannell, v.; Bow-wow, n.)。

これらを総計すると2132個となる。

5 シェイクスピアにとって造語とは、それによって最も言いたいことを、これまでになかった新しい語を用いて、最も効果的に表現することを意味し、造語数が多いとは、シェイクスピアの最も充実した時期を示している、と言える。例えば、Duncanを殺害したMacbethの台詞、

No, this my hand will rather
The multitudinous seas incarnadine,
Making the green one red. (2.2.62)

のmultitudinousがシェイクスピアの造語であるが、この1語が与える効果については、ここで指摘するまでもなからう。

6 第4期は、1行にしめる造語の比率も低く、したがって、造語数に対する複合造語の比率が高くなっている点では、第1期と第2期に類似しているが、主要な五つのパターンによる複合造語の比率においては、それらの時期と第3期の中ほどということになる。この第4期は、第3期の特色を残しながらも、第1期と第2期に近づいている。シェイクスピアはこの時期においては、突き詰めて考えたリアリティからの緊張感からとき放たれて、穏やかなロマンス劇の世界観を持ち、それにふさわしい言語観を持つにいたった。それは習作期の言語のような自然体を示しながらも、あくまで第3期を通過したことに意義がある文体である。この時期の本格的な考察は別な論考を必要とするだろう。

そのため本稿においては、いくつかの例示にとどめたい。第4期の特色ある複合造語は、Up-cast, n. CYM 2.1.2 (2-7), Land-damn, v. WT 2.1.143 (4-2), Weather-fend, v. TMP 5.1.10 (4-2)である。特にWeather-fend (all prisoners, sir./In the line-grove which weather-fends your cell)は特色ある語である。*The Riverside Shakespeare*によれば、これは'serve as windbreak for'の意となる。名詞と動詞を連結して動詞を作る造語法の意外性と同時に、この2語の連結そのものの意外性がある。この造語によって、造語を含む文が印象に残るものとなっている。

7 引用の後には、創作時期・作品名・引用行数・分類番号の順に表記している。その際、第1期、第2期以外のもの、また五つの主要パターン以外のものには、その数字にアンダーラインを付した。

8 Eric Partridge, *A Dictionary of Slang and Unconventional English* (1937; rpt. London: Routledge & Kegan Paul, 1967)による。

9 OED²におけるHardockの語源欄を参照。

かばん語とほぼ断定できるシェイクスピアの複合造語は、Bubuckle (H5 3.6.108)—bubo+carbuncle—であろう。

(1995年4月30日受理)

1

名と
b
前

と
理
二
そ